

# 鹿屋市DX推進計画の概要

- ▶ デジタル化の遅れに対する迅速な対処、求められる社会全体のデジタル・トランスフォーメーション
- ▶ デジタル技術の活用による、鹿屋市における仕事や暮らしの向上に資する新たなサービスの創出・持続可能性の向上・Well-Beingの実現等

## 基本的な考え方① 目的ではなく「手段」として進めるデジタル化

- ✓ 単なる新技術の導入ではなく、**新技術に合わせた制度や政策、組織のあり方等を変革していく。**

## 基本的な考え方② サービスデザイン思考の徹底

- ✓ 提供者の視点で用意した手続を利用者に「使わせる」のではなく、サービスの受け手側の立場を考慮したサービス・業務を設計・開発した上で、**利用者に「使っていただく」という意識を持って取り組む。**

## 基本方針① デジタル技術を利用した便利で快適な行政サービスの提供

- ✓ 全ての行政手続や各種行政相談が、いつでもどこでもスマートフォンやタブレットなどから簡単にできる。**(自治体フロントヤード改革の推進)**
- ✓ オンラインで確実に本人確認ができ、マイナンバーカードを利用した行政サービスを行うことで、市役所に来なくても、住民が、より高度な行政サービスを楽しむことができる。**(マイナンバーカードの普及促進・利用の推進)**
- ✓ 市の普通会計に属する全ての公金並びに公営事業会計に属する公金のうち水道料金及び下水道使用料について、eLTAX（地方税共同機構が運用している地方税ポータルシステム）を活用した納付を行うことができる。**(公金収納におけるeLTAXの活用)**
- ✓ オープンデータや官民データを活用することで、新たな価値を創出し、経済の活性化・地域課題の解決ができる。**(オープンデータの推進・官民データ活用の推進)**

## 基本方針② デジタル化による行政運営の効率化

- ✓ システムが共通化・標準化されることで、システム調達のコストが抑えられる。**(情報システムの共通化・標準化)**
- ✓ テレワークの利用により、災害時や感染症流行時における業務継続性が確保され、また、公務能率の向上や職員のワーク・ライフ・バランスの充実が図られている。**(テレワークの推進)**
- ✓ 業務が可視化され、AI・RPAなどのICT技術を業務改善に活用することで、業務の在り方が更新され、効率的な行政運営がなされるとともに、職員の負担軽減が図られ、職員がより高度な市民サービスを提供することで市民の利便性が向上する。**(AI・RPAの利用促進)**
- ✓ 書面・押印・対面がなくなり、申請から決定までの一連の行政手続きが、最初から最後まで、すべてデジタルで完結し、市民と職員の双方が利便性を感じられる。**(BPRの徹底（書面・押印・対面の見直し含む）・業務プロセスのデジタル化)**

## 基本方針③ デジタル化の基盤の整備促進

- ✓ セキュリティ対策が万全なネットワークや情報システムが整備され、あらゆる危機に対応できている。**(セキュリティ対策の徹底)**
- ✓ 住民リテラシーの向上を図るための取り組みを行う。**(デジタルデバイド対策推進)**
- ✓ DXに関する職員の理解が進み、市民サービスにつながる政策について、自発的に提案をすることができる。**(職員の育成)**
- ✓ 作業効率や生産性が高まるような、働き方本位の職場環境が整っている。**(職場環境の最適化)**

## 計画の推進体制

- ✓ **「鹿屋市DX推進本部」** 鹿屋市のDX施策の推進にかかる意思決定機関（市長と部長級職員で構成）
- ✓ **「DX調整部会」** DX推進に関する取組事項について、全庁横断的に調整（総務部長を本部長とし、市長公室長を副本部長とし、政策推進課長、総務課長、財政課長、デジタル推進課長で構成）
- ✓ **「DX推進職員」** それぞれの部署において、DX推進における普及、啓発、支援等を行う。（各課の課長補佐等）
- ✓ **「CXO補佐官」** 「市民サービスの向上」と「業務の効率化」を実現するため、専門的な知識と経験を有するCXO補佐官を設置し、鹿屋市DX推進本部への助言・提案や研修会の実施等により、本市のDX化についてより一層の推進を図る。
- ✓ **「DXアドバイザー」** 行政の最適化を目的とするDXに係る国・県の動向並びに社会情勢などについての本市のDXをより一層推進するため、専門的な見地から助言等を行う。

